

司法試験 公認会計士試験 国家公務員採用総合職試験

合格祝賀会



▲ 合格者を代表して沼倉さんが謝辞を述べた

司法試験、公認会計士試験、国家公務員採用総合職試験の「2015年度合格祝賀会」が12月14日、神田キャンパスで開かれた。公認会計士試験では在学生合格者が過去最多の11人、初めて女子学生が合格(5人)と

二重の快挙に沸いた。今年度は司法試験13人、公認会計士試験18人、国家公務員採用総合職試験2人の合わせて33人が合格(15年12月14日現在)。日高義博理事長、矢野建一学長、ゼミの指導教員や育友会、校友関係者らから祝福を受けた。

矢野学長は「司法試験、公認会計士試験ともに二けたの合格者で、なかでも公認会計士試験は最高の成果を上げてくれた。さらに精進し社会で活躍されることを期待しています」とエールを送った。日高理事長は「皆さんの社会で発揮する力が、大学の評価となって返ってくる。良き法曹、良き会計士となるため奮闘努力していただきたい」と激励した。合格者には大学、育友会、校友会職域支部の法曹会、会計人会からそれぞれ記念品が贈呈された。

都合により写真は掲載いたしません	都合により写真は掲載いたしません
林友樹さん	伊関千裕さん
都合により写真は掲載いたしません	都合により写真は掲載いたしません
沼倉昂さん	藤林沙羅さん
都合により写真は掲載いたしません	都合により写真は掲載いたしません
浦山竜弥さん	佐藤瑞紀さん
都合により写真は掲載いたしません	都合により写真は掲載いたしません
村田真奈美さん	牧野成讓さん
都合により写真は掲載いたしません	都合により写真は掲載いたしません
宇野雅さん	山本陽野さん
都合により写真は掲載いたしません	都合により写真は掲載いたしません
松原拓哉さん	

15年度公認会計士試験、国家公務員採用総合職試験合格者

司法試験合格者は本紙10月号(第541号)に掲載。国家公務員採用総合職試験【院卒者試験】にも1人が合格している。※カッコ内は在学中の出身校

◆公認会計士試験

▽伊関千裕さん(商3、建部宏明ゼミ、埼玉県川口市立川口総合高)▽藤林

沙羅さん(商3、同、神奈川県藤沢市清流高)▽佐藤瑞紀さん(商3、同、山形県酒田光陵高)▽牧野成讓さん(商3、伊藤和憲ゼミ、東京都小岩高)▽山本陽野さん(商3、松本徹ゼミ、神奈川県藤原市西高)▽林友樹さん(商4、茨城県

水戸商高)▽沼倉昂さん(商4、奥西康宏ゼミ、東京都拓殖大学第一高)▽浦山竜弥さん(商4、埼玉県熊谷西高)▽村田真奈美さん(商4、植田敦紀ゼミ、静岡県三島北高)▽宇野雅さん(ネット情報4、石鎚英也プロジェクト)

ト、東京都青梅総合高)▽松原拓哉さん(経済4、神奈川県橋本高)▽藤原明ゼミ、東京都芝商高)▽原良子さん(平24文、石金浩史ゼミ、福岡県明治学園高)▽星祐太さん(平22ネット情報、伊東洋三プロジェクト、東京都専修大学附属高)▽濱田卓さん(平18商、東京都早稲田実業高)

計修会も祝賀会

計修会(専修大学公認会計士試験研究会)主催の公認会計士試験合格祝賀会が12月12日、神田キャンパス近くの会場で約50人が参加して開かれた。本年度は計修会から牧野成讓さんと山本陽野さんの2人(いずれも商学部会計学科3年次生)が合格した。

催の「会計士講座」で指導していただいている先輩生5人も駆けつけた。生5人も駆けつけた。当日は会計士として活躍中のOBに加え、エクステンションセンター主任「現役合格10人以上を達成できた。今後は合格者数「大学ベスト10」を目標に」と激励の言葉をい

公認会計士試験合格者の声

ゼミ仲間3人が合格

佐藤 瑞紀さん(商3)

山形県酒田市出身です。リーマンショックの影響による就職難をさまざまな場面で見えてきました。資格を持つ必要性を肌で感じ、公認会計士を目指すことに。目標は地方再生への貢献です。

試験勉強は1週間単位で課題を自分で課し、終わるまで休まない。それが終わるまで休まない。と決意。一つ一つこなしていきました。こつこつとした取り組みが実を結んだと思います。

建部ゼミから3年次女子3人が合格し、こんなうれしいことはありません。同居の姉が、いつも励まし、支えになってくれました。

試験勉強を楽しんだ

牧野 成讓さん(商3)

試験勉強は、問題の本質を見て取り組むようにしてきました。暗記がすべてではなく、頭を使い考えながら覚えていかなければ本質が理解できないし、先につながらないと思います。

日々の勉強は、一日中、根を詰めた時もあれば、「今日はのらない」ときっぱりあきらめて次に備えた時もあり、メリハリを大切にしました。

努力することはもちろん大切。そこから得た発見を楽しんだり面白かったりする姿勢があったから、きつい試験勉強を継続してやってこれたのだと思います。

母親の夢もかなえた

村田 真奈美さん(商4)

数学が得意な私に公認会計士という仕事を教えてくれたのは母です。若い頃、目指していたけれど諦めたこと聞き、挑戦しようと思った。財務会計論の長い問題を解き進み、完璧できた時の爽快感、達成感は何ものにもかえられません。楽しいと思えたから頑張りました。

一人暮らしで2年次から食事はコンビニ頼み。勉強に熱中すると夕食を食べそこね、体調を崩したこともあり。野菜をこまめに食べる、起床・就寝時刻を一定にして生活リズムを整えることを心がけるなど、体調管理に気を遣いました。



計修会は、合格者と身近に接することで競い合い、励まし合って同じ目標に挑戦する仲間が集う場。そこで鍛えられたコミュニケーション能力は、社会人基礎力の向上や卒業後の連携強化にも役立っている。

最後にあいさつした牧野さんは「試験合格後に何をしたいかイメージし努力してください」と語り、後輩は「来年は自分たちが合格を志す。同じ目標を持った志の高い新入生が来年度も計修会に多く入室してくれるよう、室員一同期待している。」

(商学部長、計修会室長 佐々木重人)

謎と恐怖の楽園

権田萬治著

1960年、チャンドラー論で第一歩を踏み出し、ミステリー評論50年を迎えた著者の、批評活動の集大成が本書だ。

ミステリーとは「虚構の世界で謎解きとスリル、サスペンスを楽しむ小説」と定義、題名にはそんな意味を込めた。

ミステリー論、作家論、作品論、論争に加え、ミステリー文学資料館館長として同館ニュー

スに掲載した作家対談を収録した。作家論では星新一、筒井康隆のほか日影文吉、樹下太郎、多岐川恭など個性的な作風で魅力を放つ作家も取り上げている。

専門書ではあるが、どれも読みやすい。著者は「作家の心の底に秘められたかすかな叫びにも耳を傾けるべきである」と言う。文学にとどまらず幅広い視野で作家や作品をとらえる視線が、隅々に込められている。(光文社・本体3000円+税)

著者(ごんだ・まじ) 〓元文学部教授。ジャーナリズム論、近現代文学。

民法概論

川井健著 良永和隆補訂

民法の基本書として人気が定評があり、不動の基本書となっている「民法概論」シリーズの家族法を扱う第5巻補訂版。著者である川井氏(元一橋大教授)が2013年に亡くなられたため、良永教授が改訂を担当した。初版から8年ぶりの改訂である。

民法の補訂では、実務の変更点などを含め、家族法の動きを網羅している。家族法についての最新かつ最高水準の内容をコンパクトに知ることが出来る一書。(有斐閣・本体2900円+税)

補訂者(よしなが・かずか) 〓法科大学院教授。主な担当は、民法I・III、民法特論。

